静と動の織り成す郷土の舞

第12回さつま郷土芸能祭

今回で12回を数える「さつま郷土芸能祭」に、以下の3団体が出演します。
各地区に伝わる　〝郷土の舞〟をご堪能ください。

01 三尺棒踊り

武白猿民芸保存会

「三尺棒踊り」は一時途絶えていましたが、23年前に経験者たちの手で復活を遂げました。「ひらうち」と呼ばれる刀を持った武士と「なかいり」と呼ばれる鎌の付いた棒を持った農民に扮した踊り手が一緒に舞うのが特徴です。
　踊り手も高齢化していますが、子どもたちへ伝え、残していきたいと願い、踊り続けています。



02 疱瘡踊り

市場公民会疱瘡踊り保存会

「疱瘡（ほうそう）踊り」は、江戸時代末期に疱瘡と呼ばれる病、別名天然痘（てんねんとう）が大流行した際、疫病退散（えきびょうたいさん）を神様に祈願し、もてなすことで病を追い払おうとした様子を表現しています。
　市場公民会では女性によって受け継がれ、敬老会や文化祭などで披露しています。



03 一本矢旗踊り

船木東一本矢旗踊り保存会

　文禄慶長の役（ぶんろくけいちょうのえき）における島津の朝鮮出兵の凱旋を祝って始まったと伝わります。戦前より船木区の南方神社（みなみかたじんじゃ）の祭典で踊りを奉納していましたが、のちに3年に1度の船木豊年祭での披露で親しまれるようになりました。コロナ禍以降は披露できずにいましたが、今回７年ぶりに披露します。

